

藤河内溪谷周辺地域の野鳥

藤河内溪谷周辺地域の野鳥

藤河内溪谷周辺の森林部では、1年を通してヤマガラやシジュウカラ、エナガなどが見られます。春から夏にかけては、南からオオルリやホトトギスなどの夏鳥が繁殖のために渡来し、冬には、ルリビタキやキクイタダキなどの冬鳥が越冬のために渡ってきます。

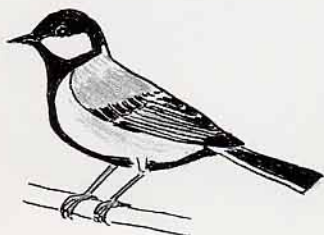
溪流部では、カワガラスやキセキレイなどが生息し、冬にはオシドリが見られます。



溪谷とその周辺の森林に住む野鳥たちの四季

春

この地域で1年中生活しているヤマガラやコゲラ、エナガなどの留鳥が、繁殖の準備を始めます。縄張りを決め、ペアーを作り、巣作りにかかります。南の国からは、オオルリやクロツグミなどの夏鳥が渡ってきて、同じように繁殖の準備を始めます。

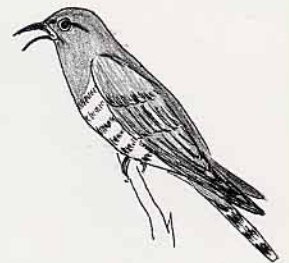


シジュウカラ

夏

初夏の頃は、野鳥たちが子育てに忙しい時期です。林の中では昆虫の幼虫やクモなどを採り、溪流では水生の昆虫などを採ってヒナに運びます。

ホトトギスやジュウイチの仲間は、自分で巣を作らず、ウグイスやオオルリなどに自分の卵を預けて、子育てをしてもらいます。これを託卵と言います。

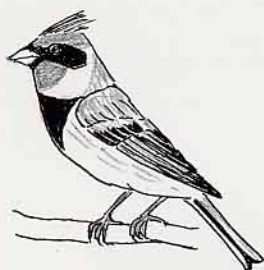


ホトトギス

秋

繁殖を終えた夏鳥たちは、南の国へ移動を開始します。その年に生まれた若鳥たちも、自分の翼で東南アジアの方まで渡って行きます。

この夏鳥にかわって、ミヤマホオジロやシロハラなどの冬鳥が、越冬のために北国からやってきます。



ミヤマホオジロ

冬

留鳥のシジュウカラやエナガ、ヤマガラなどは、異なった種類の鳥と一緒に群れを作り、林の中を移動しながらエサを探しています。これを「カラの混群」と言います。

越冬のために渡ってきたオオタカやハイタカなどの猛禽類は、林の中を飛びながらエサとなる小鳥類を探しています。

溪流の少し水が多い所では、オシドリが渡ってきます。



オオタカ



タニウツギ花上のクスベニカミキリ



樹液を攝取中のクロコノマチョウ



交尾中のヨツモンカメムシ



草木の葉上に見られる南方系の
キガシラアオアトキリゴミムシ



子はやき
襲速紀系の標徴種とされている
オオダイセマダラコガネ



サクラやエノキの樹幹部に生息する
ヨコズナサシガメ



森林周辺部の植物葉上に見られる
クビアカサシガメ



農耕地帯から姿を消した
キイロサシガメ



地面や背の低い植物葉上に
生活するホソサシガメ